

**東京大学大学院人文社会系研究科**  
**次世代人文社会学育成プログラムによる海外派遣**  
**帰国報告**

最終報告提出日:9月28日

**派遣生の基本情報**

氏名:利根川真輝

所属先:東京大学文学部行動文科学科社会学専修課程3年

派遣形態:平成24年度夏学期推奨プログラム(学部生)

**研究課題名**

『フランス社会学における「連帯」思想に関する理論的考察』

**派遣先での活動**

(1)派遣先の基本情報

フランス, ブザンソン・応用言語学センター(Centre de linguistique appliqué)

(2)派遣期間

2012年7月28日~8月26日

**主な研究成果**

(1)当初の計画の概要

フランス社会学において、「連帯」の思想は、19世紀以来福祉国家の主要な原理として語られてきたが、グローバル化による雇用の不安定化等に伴い、福祉国家の社会的紐帯から脱落し排除される人々が問題化した。そうした中で活発化した、ドンズロ、ロザンヴァロン、カステルらによる連帯の再生を唱える社会学的な議論について、フランス語文献の理論的研究を通じてその有効性を考察する。

(2)実際に達成された結果

本派遣の内容は、ブザンソン応用言語学センター(CLA)において語学研修を受けるというものであった。CLAでは、フランスの社会・文化等を題材に、全てフランス語での授業を受けた。また、授業の合間には、附属図書館所蔵の人文系のフランス語資料を読むことができた。この研修に加えて、1ヶ月間の現地での日常生活を通して、会話・聞き取り・読解等のフランス語能力の大幅な向上を達成できた。しかし、附属図書館には研究分野である社会学理論の蔵書は少なく、当初の研究計画に直接的に関わるような文献を見つけることはできなかった。しかしながら、将来的に研究を進めるための素地となるフランス語能力の向上を得られたことは、本派遣の成果であるといえる。

(3)今後の研究展望

今回の派遣では、研究に関わる直接的な成果は得られなかった。今後の展望としては、まず日本語で読める文献を精査し、先行研究を検討しなおした上で、日本語に未訳のフランス語文献を調査し、必要であれば現地での調査も交えつつ、具体的な研究を進めていくことが求められる。